

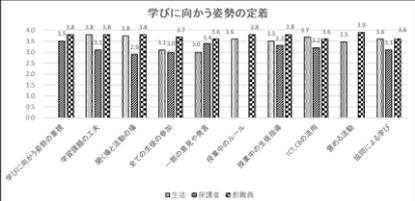
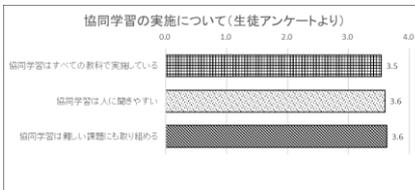
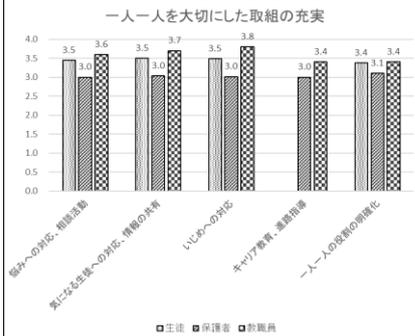
学校教育目標

共に考え、協同して課題解決に努める生徒の育成

自信と誇りが持てる信頼される学校

[本年度の重点努力目標]

- 1 学びに向かう姿勢の定着による学力向上
- 2 人権教育の推進による道徳性の向上
- 3 特別支援教育の推進と生徒指導の充実
- 4 地域を愛し、地域に貢献するふるさと教育の推進
- 5 健康・安全教育の推進

評価項目 (評価指標) そのための具体的な方策・手立て	評価 A/B/C	その根拠 Noは教職員アンケートによる。 %は、肯定的な評価の割合	考察・分析及び改善策等
<p>1 学びに向かう姿勢の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を根付かせるための授業の展開 ・学習への構えを確立させるための指導と支援 ・家庭と連携した学習の定着の時間 (家庭学習) の確保  	A	<p>No1: 保護者 93.9% 教職員 100.0%</p> <p>No2: 生徒 99.5% 保護者 84.8%</p> <p>No3: 生徒 99.0% 保護者 75.2%</p> <p>No4: 生徒 83.9% 保護者 69.5%</p> <p>No5: 生徒 73.7% 保護者 89.1%</p> <p>No6: 生徒 96.5% 教職員 100.0%</p> <p>No7: 生徒 93.0% 保護者 87.8%</p> <p>No8: 生徒 99.0% 保護者 87.9%</p> <p>No9: 生徒 92.0% 教職員 100.0%</p> <p>No10: 生徒 96.5% 保護者 84.8%</p>	<p>No.1 については、生徒質問なし。No. 2、No. 9については、保護者質問なしのため、教職員評価と比較をしている。</p> <p>保護者については、学力観と学力向上のために必要とされる授業の在り方についてアンケートを実施し、生徒の実態との整合性を検証してみた。その結果、授業では一斉学習よりもグループ学習を取り入れた方が、生徒の理解や思考が深まると思うと回答した割合が増えたことから、徐々にではあるが、本校が取り組んできた「協同学習」が保護者にも浸透してきたように捉えている。</p> <p>生徒については、協同学習への意識が高まっており、そのための学習課題やルールの徹底を望んでいることがうかがえる。また、授業においては、より多くの生徒の考えや意見が反映されることを望んでおり、一部の生徒の発言等により授業が進むことを敬遠する傾向がある。</p>
<p>2 一人一人を大切にした取組の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止対策の徹底と早期発見、早期対応 ・考え、議論する道徳授業の展開 ・生徒の自発的行動の促進と適切な評価 ・自己実現に向けたキャリア教育の推進 	B	<p>No11: 生徒 91.8% 保護者 83.8%</p> <p>No12: 生徒 94.0% 保護者 78.1%</p> <p>No13: 生徒 92.5% 保護者 75.5%</p> <p>No14: 保護者 80.0% 教職員 100.0%</p> <p>No15: 生徒 92.3% 保護者 86.1%</p>	<p>No.14 については、生徒質問なしのため、教職員評価と比較をしている。</p> <p>保護者の評価において、いじめ防止、早期発見・早期対応に対する不満がうかがえるが、学校におけるいじめアンケートや教育相談の実施状況、生徒や家庭からの相談相談状況等と相関しない面があり、いじめの問題について、学校と家庭が共通認識し、連携した指導を行う必要がある。</p> <p>生徒の評価については、前期とほぼ同様の結果であり、改善が図られたとは言い難いが、前期より不満を訴えている生徒の数は減少している。</p> <p>保護者、生徒の不安解消のためにも早期の適切な対応を徹底して行っていく。</p>

<p>3</p>	<p>支持的風土の醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業における支持的風土の醸成 ・人権教育の推進による支持的風土の醸成 ・生徒指導の三機能（自己決定、自己存在感、共感的人間関係）に基づく、積極的生徒指導の実践 ・ソーシャルスキルトレーニングの手法を用いた規範指導の実践 	<p>B</p>	<p>No16 : 生徒 97.0% 保護者 90.2%</p> <p>No17 : 生徒 91.0% 保護者 85.6%</p> <p>No18 : 生徒 97.0% 保護者 79.4%</p> <p>No19 : 生徒 94.5% 保護者 86.7%</p> <p>No20 : 保護者 88.2%</p> <p>※No20:教職員 93.8%</p>	<p>No.20 については、生徒質問及び教職員評価なしのため、保護者のみ実施。※No.20 については、教職員評価のみ実施。</p> <p>支持的風土の根幹となる「安心して授業や学習活動に参加できる雰囲気」については、本校研究の柱の1つともなっていることから、生徒の評価については3.5以上を目指していたが、若干届かなかった。前期に比べ否定的な回答をした生徒は減少しているが、一定数の生徒に不満があることを考えると、一層の取組が求められる。</p> <p>「生徒の良い発言や考え、行いを認め、褒めている」に関しては、前期よりも評価が上昇しており、否定的な評価をしている保護者の数も減少している。継続した取組を通して、学校全体の雰囲気の高揚に努めたい。</p>
<p>4</p>	<p>ふるさと教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間における協同学習 ・地域に誇りを持ち、地域に貢献するふるさと教育の実践 ・地域の教育資源の積極的な活用と連携 ・生徒会活動の活性化による課題解決能力の向上 	<p>A</p>	<p>No21 : 生徒 96.0% 保護者 78.7%</p> <p>No22 : 生徒 97.5% 保護者 82.5%</p> <p>No23 : 生徒 92.5% 保護者 86.2%</p> <p>No24 : 生徒 90.8% 保護者 66.2%</p>	<p>ふるさと教育推進の意義が保護者に伝わりにくいことから、生徒と保護者の評価の開きが見られる。特に、ふるさとに対する思いや未来への志向については、生徒の評価と保護者の評価に差が見られる。</p> <p>ふるさと教育に対する生徒の認識や意識は、前期と同様に高いものがある。保護者についても、各項目の評価において、若干の上昇がみられる。後期は、「総合的な学習の時間」での多様な活動が実施されたことが影響しているものと考えられる。ふるさと教育の意義と必要性について、保護者に更に発信するとともに、保護者の理解と協力のもとにふるさと学習を進める必要がある。</p>